

11. 第 20–21 回高木レクチャーについて

第 20 回高木レクチャー (2017 年 11 月, 東京) の報告と第 21 回高木レクチャー (2018 年 6 月) の予定をお知らせいたします。

高木貞治先生の名を冠した講演会「高木レクチャー」は、卓越した数学者を日本に招聘し、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。講演は専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象として行われます。高木レクチャーをもとに書き下ろした研究総説は、講演の当日に「高木ブックレット」として配布され、その後、加筆修正された原稿は査読を経て *Japanese Journal of Mathematics (JJM)* に掲載されることになっています。

この趣旨に基づいた「高木レクチャー」の創設が 2006 年 3 月 26 日 (日)、日本数学会評議員会で承認され、2006 年 11 月に第 1 回高木レクチャーが京都大学数理解析研究所で開催されました。高木レクチャーは回を重ね、昨秋第 20 回目の高木レクチャーが、以下のように開催されました。

日時：2017 年 11 月 4 日 (土)

場所：東京大学大学院数理科学研究科

講演者と講演題目：

- Martin Hairer
(Imperial College London)
“Renormalisation of parabolic stochastic PDEs”
(放物型確率偏微分方程式の繰り込み)
- Andrei Okounkov
(Columbia Univ.・京都大学)
“The Donaldson–Thomas theory of threefolds, or why is it interesting to count sheaves?”
(3 次元多様体のドナルドソン・トーマス理論、または、なぜ層の数え上げがおもしろいのか?)

主催：日本数学会

東京大学大学院数理科学研究科

組織委員：小野薫，河東泰之，小林俊行，
斎藤毅，中島啓

Hairer 氏は 2014 年 (ソウル) のフィールズ賞受賞者、Okounkov 氏は 2006 年 (マドリッド) のフィールズ賞受賞者で、それぞれ 1 時間×2 回の講演が行われました。参加者は 150 名を超えました。当日には、予稿の「高木ブックレット」(iv+102 頁) が配布されました。高木レクチャーのために書き下ろされた原稿の最終版の研究総説論文は査読後、JJM に掲載される予定です。

また、今回は高木レクチャーの第 20 回目の開催を記念し、講演会場に隣接した教室で、過去の 19 回の高木レクチャーの講演風景などの写真を展示しました。

高木レクチャーの講演のビデオは日本数学会情報システム運用委員会と東大数理 Video Archives プロジェクトチームにより撮影編集が行われ、web 上で一般公開する予定です。

次の第 21 回高木レクチャーは、

日時：2018 年 6 月 23 日 (土)

場所：京都大学数理解析研究所

講演者：

- Nicolas Bergeron
(Univ. Pierre et Marie Curie)
- Jean-François Le Gall
(Univ. Paris-Sud)

主催：日本数学会

の予定で開催いたします。

講演はそれぞれ 2 回ずつ行われます。最新情報は高木レクチャーの HP

http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/takagi_jp/

をご覧ください。

JJM は、2006 年に廃刊の危機を乗り越え、3rd Series として「新しい創造を引き起こすような研究総説論文」を掲載するジャーナルとして生まれ変わりました。

ジャーナルのホームページ

<http://www.springer.jp/JJM/>

では、最新の情報とともに、JJM 3rd Series に掲載された論文のアブストラクトの和訳も掲載しています。

(小林俊行 記)